

コロナ禍で変わった

家族の時間を充実させた好事例集



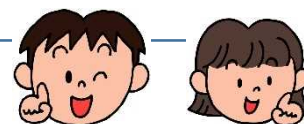
香川県教育委員会
生涯学習・文化財課



衛生管理の意識向上:病気が減った!

- 新型コロナウイルスに関する様々な情報を報道等を通して知ることにより、子どもたちが感染症の怖さを知り、**感染対策の意義や方法が理解できる**ようになりました。今まで以上に体調に気を遣い、マスク着用や手洗いの徹底をした結果、**子どもが風邪ひとつひかず、元気に過ごす**ことができています。
- 自分が感染しないようにするとともに他人にうつさないように意識するなど、新型コロナウイルス対策を通して、**他の人への気遣いや思いやり**について改めて親子で考えることができました。

社会的関心が向上:日常生活が大きく変わった!



- 世の中で起こっているニュースと、休校をはじめとする学校での対応が直結し、子どもが**社会の出来事に関心を示す**ようになりました。
- 新型コロナウイルスをきっかけに、他の地域の実情や医療従事者の苦勞、経済面での打撃や、政府の対策など、様々な角度から**親子で新聞やニュース番組を見る**ようになり、家族でお互いの考えを伝えあうことが増えました。そして、自分たちにできることとして感謝の気持ちを知り合いの看護師に伝えることにしました。
- 家族みんなで「我慢すること」を少しは学べたと思います。旅行や不要なショッピング、外食をやめただけでなく、子どもたちは県外に住む祖父母等にも一年半会えていませんが「みんなのため」「自分のため」とがんばっています。また**コロナ差別についても家族で話し合う機会**がありました。

体験活動が充実:家庭での工夫がいっぱい!



- 一日のスケジュールを子どもに考えさせ、**オリジナルの時間割**を作りました。
- 料理や裁縫など家庭で様々なことに挑戦させたら、**できることが増えました**。それをきっかけに自信をつけたようで、学校が再開した今でも、積極的にお手伝いをしてくれます。
- 近所の公園や田んぼ、畑や川などの自然豊かな場所で、積極的に遊ぶようになり、**体験活動の魅力**を体感することができ、**地域の人との会話**も増えました。
- 家で過ごす時間が増え、最初はテレビを見る時間が長かったのですが、そのうち、読書や、田んぼでの野遊び、山登り、祖父母の手伝いなど、より自発的に、活発に動くようになりました。



体験活動が充実：家族の思い出！

- 家で過ごす時間が増えたのでみんなでゲームなどをして、家族で過ごす時間が増えました。特に父親と一緒にすることが増え、子どもの生活についてたくさん考えてくれるようになりました。
- 家族で初めてキャンプをしました。家とは違う環境の中で生活することの楽しさとともに、難しさも感じました。実際に野外での生活を体験することで災害が起きたときのことなどを親子で話すことができました。私自身、子どものころ以来のキャンプだったので子どもと一緒にハマってしまっています。家の庭にテントを張って、家キャンも楽しんでいます。
- 虫取り網とかごを持って毎日虫取りに出かけました。子どもは虫を取るたびに「何ていう虫？」と聞いてくるので、家に帰って図鑑で調べることで、知育遊びにもなりました。



- コロナ禍にしかできない事は、なんだろうと考えました。子どもは、おばあちゃんと料理をしたり、おじいちゃんと農作業を一緒にしたりしました。飯ごう炊飯もしました。学校や地域の行事は全然なかったけど、家族で思い出づくりをがんばりました。

- ものづくり（粘土や塗り絵）をして、作品を飾ることをしていたので子どもに意欲が出てよかったです。
- ステイホームであったものの、子どもと親が窮屈な思いをしないようにと山登りや公園で遊ぶなど、コロナ前よりも外遊びの機会が増えました。



家族の絆が深まる：一緒に過ごす時間が増えた！



- 家族での会話が増えました。多くの行事が中止になり、家でゆっくりと過ごしたり、片付けをしたりすることで、心に余裕も生まれました。これを機に「何をしたら喜んでもらえるか、嫌がられることはしないなど、相手の立場に立つことの大切さ」について話し合う機会をもちました。みんなで家事を分担することで、協力することの大切さやありがたさを再認識しました。
- 臨時休校で、子どもたちだけで過ごす時間が増え、仲よくなりました。忙しく働く親のためにと、兄弟で協力してお手伝いをしてくれました。
- 今まで子どもとふれ合う時間が少なかった父親が子どもと遊ぶ機会が増えました。また、父親が在宅勤務で家事を分担してくれていたのですが、在宅勤務が終わった今でもよく家事をしてくれるようになりました。職場の会話からも、男性の家事や育児に対する意識が変わったなあと感じます。
- 親が子どもの勉強を見る時間が増えたことで、学習内容や理解度を把握することができました。
- 遠方の祖父母を心配し、オンライン帰省などで以前より連絡する回数が増えました。

料理にチャレンジ：一緒に料理し会話のきっかけに！

- ・親子であることを大切にしていました。料理だと一緒にメニューを考え、調理し、食べて、感想まで言い合えるのでよかったです。以前よりも話す回数が増えました。
- ・小3の息子と料理をしました。今まで簡単な作業をお願いするだけでしたが作業の段取りや、なぜその作業が必要なのかなど詳しく一緒に考えることができました。一人で最初から最後まで作業できるメニューもでき、休日の昼食やおやつなどを作ってくれました。
 - ・子どもに家の手伝いをしてもらっています。洗濯、掃除、風呂洗いなど一通りやりました。その中でも興味を持ったのが料理だったので、ご飯を一緒に作って楽しむ機会が増えました。
 - ・私自身も家時間が増えたことで、普段できなかったスイーツづくりをひたすらやって楽しんでいます。そのスイーツを子どもがおいしいと言って食べている姿を見るとうれしくなりました。
- ・普段なら作らないピザに挑戦できたことはよかったです。一緒に料理をすることでできるようになったことが増えたり、小さいときには食べられなかったものが食べられるようになっていたり子どもの成長を感じられました。



保護者の子ども理解：子どもの気持ちが分かった！

- ・自分のことを後回しにして、子どもとのかかわりを考えるようになりました。親子でゲームをする機会が増え、子どもがハマることに親もとりあえずハマってみることにしました。気がつけば子どもと一緒に夢中になっていました。
- ・親も一緒にゲームをしてみました。子どもたちは1時間まで、親は忙しいので30分が限界でしたが、子どもたちは母親と一緒にしているからか、いつもより楽しそうでした。その姿を見てこちらもうれしくなりました。
- ・私もゲームには否定的な考えでしたが、コロナで自宅にいることが増え子どもに誘われて一緒にゲームをすることが増えました。そうすると実は頭を使って考えながらしないといけないことや子どもが「一緒にしてくれた」ととても楽しそうにしている姿を見て、考え方を考えるきっかけになりました。
- ・家にいる時間が増えたので、いつも子どもに「勉強しなさい」と言っている親が勉強にチャレンジしてみました。言われる子どもの大変さも理解でき、これからは子どもがやる気になる声かけを心がけようと思いました。



「親同士の学びを取り入れたワークショップ」や研修会等で、保護者の方の声を集めました。

御協力いただいた皆様、ありがとうございました。